

「二〇一一年度卒業論文題目」

有瀧まりな「近世漂着異国船の護送態勢と地域社会

—紀伊半島沿岸を事例として—

稲垣玲子「『山上宗二記』に見る中世の茶の湯」

植月愛「鯨絵に見る近世の職人像」

小川真依「志摩地方における真珠養殖の発展と地域社会」

蒲彩加「戦国武士の斬首観・死生観—戦国期毛利家を中心に—」

酒井亜希子「近世社会の疫病罹患者の忌避と救済

—尾鷲組における疱瘡を事例として—

菅原怜美「室町時代の熊野参詣儀礼」

杉山亜有美「近世・近代の海女漁における資源管理について

—江戸期の管理制度と組合規則への継承—

鈴木亜季「伊勢型紙の生産組織の近代化」

土性真也「戦国時代の合戦における武器の役割と手柄」

長嶺智美「中世の地域社会と信仰

—伊勢国一志郡の白山神社を例に—

馬場景子

「近世女性の社会的地位

—後家の家産相続権をめぐる—」

堀田知里「年中行事から見る領主・農民関係—九条政基の場合—」

村端昭紀「古代山城に関する一考察

—構造・立地から見た城門機能を例に—

山本千恵

「近世・近代移行期の神社と村人

—伊賀国名張地域を事例に—

湯澤幸「近世矢作川の舟運と川普請

—三河国内の領主・商人・村の動向をめぐる—」

吉田有里「近世道中日記に見る参詣地の食」

脇田大輔「伊勢斎宮方格地割内院地区の遺構変遷に関する一考

察—斎宮土器編年と鍛冶山西区画の再検討を中心に—」

「二〇一一年度修士論文題目」

江草由梨「古代駅家の配置に関する一考察

—駅家設置の歴史的背景から—」

中川貴皓「足利義昭政権の研究

—有力諸大名による連合政権論の提起—」

松本薫「古代伊豆の火葬—石櫃を伴う火葬墓の分析から—」

「編集後記」

不況の波が押し寄せ、学生たちは可哀想なほど就職活動に苦労している。その要因の一つが、国際化や自由競争原理などのもっともらしい言辞を伴った「経済のグローバル化」なのだろう。だがそれは「ローカル」に生きる人たちに何をもちがらしたのだろうか。第一次産業に従事する地域の過疎高齢化は深刻である。だがその多くは、少し前までは自立した継続的な生産活動を行い、慎ましくも幸せに暮らしていた社会なのである。「ローカル」からの収奪を基盤とする圧倒的な富の集中と独占の進行、それが「グローバル化」の本質ではないのか。深刻なのはその「独占と集中」が、政治や経済だけでなく文化の領域にまで及んでいる点である。今年も身近な地域に題材を求めた卒業研究が多く産み出された。そのこと自体は肯定的にとらえたいが、その地域が社会全体のいかなる位置を占め、そして現代に至るまでどのような変遷を辿ってきたかを考えたい。それが真の意味で全体を見る眼を養うことになるのだと思う。(一)

三重大史学 第一二号

二〇一二年三月三十一日発行

編集・発行 三重大学人文学部考古学・日本史・東洋史研究室

〒五一四一八五〇七

三重県津市栗真町屋町一五七七

TEL: 〇五九一三三二一三二一 (代表)

FAX: 〇五九一三三二一三二一 (共同)

MAIL (山田雄司) : yyamada@human.mie-u.ac.jp

印刷

伊藤印刷株式会社 (津市大門三二一三)